



日中の気温が高くなり、夏本番を思わせる日々が続いています。新型コロナウイルス感染レベルが下がってきていますが、今号は、そんな中で、本校で行われてきた様々な行事や出来事について、紹介してまいります。

## 第1回 一中CS運営委員会が行われました

5月25日(水)に、本校のコミュニティスクール(以下「CS」)の運営委員の皆様にご来校いただき、本校職員が「総合的な学習の時間」、「生徒会活動」、「学力向上」の3つをテーマに分かれてグループを作り、職員と運営委員の皆様との懇談を行いました。



今回の3つのグループの話合いの論点は次の通りです。

### ◇総合的な学習の時間

「目指す生徒像に近づくために、事前準備や事前学習でどんな意識をもたせることが大切になってくるか。また、そのためにはどんな活動が有効か。」

### ◇生徒会活動

「コロナ禍という点を留意しつつ、委員会という単位でどのような地域貢献や地域交流活動ができそうか。」

### ◇学力向上

「生徒たちが、大人になってから生かせるようなことを計画できないか。また、異なる世代の人たちとの関わりの中で、学べることは何か。」「(「教科学習」だけでなく「体力・気力・知力」を高めるような活動も視野に入れたい。)

本校職員が考える目指す生徒像実現に向けて、どのようなことができそうなのか、また、地域の力を借りることができるのかななどを、運営委員の皆様とともに語り合いました。

この会の終了後に、運営委員の皆様にご感想をうかがいましたので、一部の方のものではありますが、紹介します。

### ◇学力グループの先生3名と懇談をさせていただきました。

- ①人間性豊かな生徒になる
- ②将来の夢に向かって、人生を豊かにする興味関心を見付ける
- ③様々な人と関わりを持ちたい

の3点について話し合いましたが、②③については、公民館の活動を通してお手伝いできることがあると感じました。(中略)学校と地域がつながるお手伝いをしたいと強く思いました。公民館でもいろいろと考えてまいります。御校からの要望にも応えていければと思っています。ご意見ご要望等、お待ちしております。

◇現在のコロナ禍の中においては、今までの状況に戻すまでの道のりが、まだまだ長いように思います。それまでの間は、一中生のよさを宣伝アピールをして、地域に発信してほしいです。なかなか大会や活動したい活躍の場が少ないかと存じますが、一中生の活躍の場が聞けるとうれしく思います。今後、コロナ禍以前に戻した後、やはり地域にできることは課外活動が主になると思います。部活動や職場体験、また地域で活躍されている方の話など、子供たちにとって良い経験になると思います。また、校長先生はじめ、教職員の皆様と一緒によりよい一中づくりのお手伝いをさせていただきたいと思っております。

## 前時人権同和教育の学習から

5月9日(月)から6月3日(金)までの4週間、前期人権同和教育月間でした。この中で、1学年は福祉体験学習、2学年はハンセン病に関する講演会、3学年は部落差別の起こりと歴史についての人権講演会をそれぞれ開催しました。

2学年のハンセン病に関する講演会では、国立ハンセン病療養所、栗生楽泉園で職員を務めた北原誠さんからハンセン病とその現状等について、栗生楽泉園入所者の田中光憲さんからご自身の人生について、それぞれお話をいただきました。この講演会を通して、生徒は次のような思いをもちました。この思いを大切にしていきたいと思います。



### 【生徒の感想から】

- ◇ハンセン病は感染力が低くてとてもうつりにくいのに、政府が間違った政策によってこわい病気なんだと思って、差別や偏見がでて人権問題が生じたので、しっかりと正しい知識をみんなに知らせれば、差別や偏見は起きないと思いました。今後何か感染症ができたときは、間違った政策をしないで、正しい知識をもって生活すれば、差別や偏見が無くなると思いました。
- ◇ハンセン病は、とても辛い病気で、苦しい思いもしていた人がたくさんいるんだなと思いました。差別や偏見を受けたりしている人がまだいると思うと、自分も嫌な気持ちになるなと思いました。早く差別や偏見がなくなるように、今何かできることを探してやっていけたらいいなと思いました。
- ◇ハンセン病にかかると、幼くても差別を受け、さらに患者の家族も差別されてしまうことから間違った情報で多くの方が悲しみ、苦しんできたことが分かりました。ほかにも、社会から遠ざけられることで、人として見られず、生きることが苦しく思えたこともたくさんあったことも知りました。このような差別を二度と起こらないようにしないといけないと思い、そのためには、一人一人が相手を思いやる思いやりが大切だと思いました。

## 東信大会に向けて

6月は運動部員にとって、目標としてきた東信大会があります。6月3日(金)には、東信大会壮行会を行いました。全校では、声を出して応援する代わりに、盛大に拍手をしたり、心を込めて作った千羽鶴を渡したりして、応援の思いを伝えました。校長からは、選手の健闘を祈る思いを込めて、2人のアスリートの言葉を贈りました。一人目は、ノルディックスキー複合の選手である渡部暁斗さんの「常にトライアンドエラー。これからも挑戦していきたい。」



です。トライとは、試すこと、エラーとは、失敗のこと。試して、そして、「失敗」。試して、「成功」ではない。とても前向きな言葉であり、失敗しながらも更に試みて、挑戦して力を伸ばしていく。試合では失敗を恐れず思い切り挑戦、思い切りプレーをしてきてほしいと伝えました。二人目は、スピードスケートの選手である小平奈緒さんの「人生最高のレースにしたい。自分の心が震える準備をする。」です。選手の皆さんも中学校生活最高のレース、プレーをしてきて欲しい。自分の心が震える、一生忘れない時間にしてきてほしいと願い、この言葉を贈りました。

新型コロナウイルス感染防止策を徹底し、選手の皆さんが心身ともに万全な体制で大会に臨めるように、学校全体で応援していきたいと思います。

